

No.417

冬の南風

—富山の冬は南風が多い—

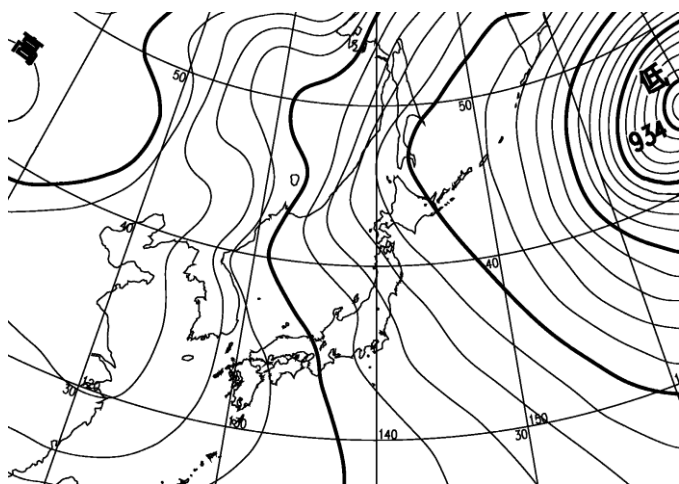
北から南に変わる

空気は温度によって重さがことなり、冷たい空気は、あたたかい空気より重くなっています。この重さのちがいは冷たい空気からあたたかい空気に向かう流れ（風）を作ります。

冬、日本列島の西に冷たい高気圧、東に低気圧がある、いわゆる西高東低の気圧配置の時、日本海では北西の風が吹き、日本海側の各地に雪をもたらします。

下の左の図は西高東低の気圧配置になった冬のある日の午前9時の地上天気図です。その時の日本海周辺の風の様子をあらわしたのが下の右の図です。矢印の向きは、その地点の風向を、長さは風の強さをあらわしています。

日本海そして、北陸から山陰地方にかけての海岸付近では北西の風が吹いていることがわかります。



西高東低の気圧配置の日の地上天気図の例

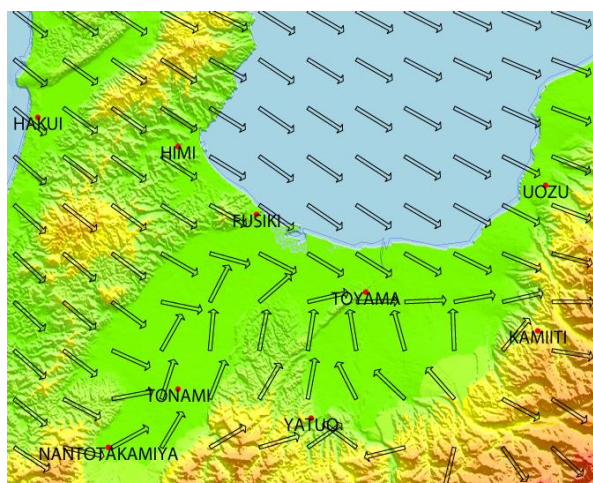


日本海で吹いている風

北から南に変わる

同じ時間、石川県では北西の風ですが、富山県では内陸部を中心に南風が吹いています（下の図）。

富山で風向が変化するには二つの原因が考えられます。一つは富山・石川県境の山地が北西の風をささぎるため南から、う回すること。もう一つは北西の風が富山県の東にある立山連峰にぶつかり、たまった空気が、冷たくて重いため、そこから空気が南風として吹きだすことです。



富山では南の風が吹いています（矢印は風向）

冬の晴れた日

春から秋にかけての晴れた日の日中、海に比べて陸があたたかいため、海から陸へ北風が吹いています。

積雪があると、冬の日中は、晴れていても陸より海の方があたたかいため、陸から海へ南風が吹くことになります。

このような原因によって、冬の富山では南風が吹くわりあいが多くなります。（吉村 博儀）